

介護予防事業について（追加資料）

全国介護保険・高齢者保健福祉担当課長会議
（平成22年3月5日）

1. 「特定高齢者」等の通称や愛称について

(1) 通称や愛称による事業展開について

- 「特定高齢者」、「介護予防」等の名称については、わかりにくい、言葉の印象が良くない等の意見が寄せられたことから、平成19年3月14日に開催した「地域包括支援センター・介護予防事業担当者会議」において、各自治体において親しみやすく地域の特性や実情に合った通称や愛称を設定する等して介護予防事業を展開していただきたい旨お願いしたところである。
- しかしながら、現在も「特定高齢者」等の名称がそのまま使用されている例が少なくなく、事業参加者が増えない一因になっているとの声も聞かれている。
- そのため、介護予防事業のイメージアップを図り、高齢者が親しみをもって積極的に事業に参加していただけるよう、通称や愛称による事業を展開していただくよう、管内市町村に改めて周知願いたい。

【参考】

平成20年度老人保健健康増進等事業「介護予防事業の推進に向けた総合的な研究」
調査結果（調査対象者：40～79歳の5,000人）

- ・「特定高齢者」という言葉について、8割以上の人が「悪い印象」と回答、約7割の人が「内容が想像できない」と回答した。
- ・「生活機能評価」という言葉については、6割以上の人が「悪い印象」と回答、約6割の人が「内容が想像できない」と回答した。
- ・「特定高齢者」という言葉の言い換えについて尋ねたところ、「特定高齢者の言い方のままでよい」と回答した人は約1割であった。
- ・「教室の名称」について尋ねたところ、「介護予防教室」等そのままだの名称を用いた方が事業内容が想像できる、「～アップ」というワードが入ると効果がありそうに感じられる、「いきいき」「まんてん」「歯つらつ」等ひらがなやだじゃれを使用すると楽しそうに感じられる、といった傾向がみられた。

(2) 通称や愛称の例について

- 以下は、市町村からの情報提供等を踏まえ、各自治体で通称や愛称を設定する際に参考となると考えられるものを記載したものであり、通称や愛称の設定の参考としていただきたい。

用語		通称や愛称の例
特定高齢者 関係	特定高齢者	・優先介護予防高齢者（優先高齢者） ・健康づくり高齢者 ・チャレンジシニア ・元気応援高齢者 ・元気アップシニア ・はつらつアップ高齢者
	特定高齢者施策	・優先介護予防高齢者施策（優先高齢者施策） ・健康づくり高齢者コース ・いきいき元気アップメニュー ・はつらつ倶楽部
	生活機能評価	・さわやか健診 ・介護予防健診
一般高齢者 関係	一般高齢者	・おたっしや高齢者 ・元気高齢者
	一般高齢者施策	・おたっしやプラン ・ますます元気教室
介護予防		・元気で長生き ・元で行こう施策 ・おげんきながいき講座 ・高齢者の健康づくり
プログラム 関係	運動器の 機能向上	・からだの機能向上 ・高齢者向け体力向上 ・からだ元気アップ教室 ・貯筋くらぶ ・日常動作が楽になる筋力アップセミナー ・いつまでも元気な足腰講座 ・筋力アップ教室 ・簡単体操で元気はつらつ教室
	栄養改善	・おいしく食べる栄養相談 ・いきいき栄養相談 ・栄養改善教室 ・食の元気アップ教室 ・つくって食べて体いきいき教室
	口腔機能の向上	・おくちの機能向上 ・おくち元気アップ講座 ・おくちの健康教室 ・お口きれいで食事おいしい事業 ・お口きたえて体も元気教室 ・歯つらつ教室
	その他	・脳力アップ教室
地域包括支援センター		・ケアサポートセンター ・いきいきセンター ・あんしんケアセンター ・地域ケアセンター ・地域サポートセンター ・サポートステーション ・高齢者総合相談センター ・あんしんすこやかセンター

2. 介護予防事業にかかる効果的な取組事例の情報の収集について

- これまで介護予防事業の先駆的な取組事例の収集については、老人保健健康増進等事業等において実施してきたところであるが、この度老健局老人保健課では、市町村における効果的な取組事例の情報を収集することとしたので、各都道府県におかれては、ご協力いただきたい。
- 情報提供に当たっては、都道府県毎に、効果的であると思われる取組事例であって、特に①費用対効果、②要介護認定率等のアウトカム指標において効果が確認されている事例を優先的に選定していただきたい。
- 情報提供に関し、提供方法、送付先等の詳細については、別途連絡させていただきます。